

2016年12月8日  
つながるベビーカープロジェクトチーム  
文責 丸山 耕輔

## ベビーカー利用促進にかかわる民間主体のプロジェクトの立ち上げについて

主にレジャー・ショッピングなどを目的に、幼児を連れて公共交通機関を利用して移動する際に、問題となるのがベビーカーの公共交通機関及び関連施設での利便性と思います。このような問題意識を持つ、ベビーカー世代ビジネスパーソンが集まり、次のようなプロジェクトを立ち上げようとしております。

1. プロジェクト名：つながるベビーカー

ネーミングの趣旨

- ・ ベビーカーを基点にいろいろな人がつながれば良いな という願いをこめて

2. 目的：

公共交通機関を利用してレジャー・ショッピングに出かける際に、行き先でベビーカーを借りられるようにすることで、移動中の運搬の負担を減らし、外出機会を増やせるようにする。

3. 内容：

ベビーカー貸し出し場所をエリア内に設置し、レンタルを実施する。  
費用、設置場所、運用主体などについては今後検討。

4. 具体的な場所：

みなとみらい地区

5. 場所を選定した理由：

みなとみらい地区は比較的高低差が少なく“まち歩き”に適した場所であること、また、アンパンマンミュージアムなど子ども向け施設が多く、幼児連れの家族が訪れやすい地区であることが一番の理由である。しかし、レジャー・ショッピングエリアとして規模が大きく、幼児連れで移動するのに徒歩／抱っこ紐では負担が大きいこと、施設～施設間の距離が徒歩では遠く、車では近いこと、及びプロジェクトメンバーの居住地・勤務地が近く、勤務先の支援なども期待できることから当該地区を選定した。

6. プロジェクトメンバー（現在）：

発起人と趣旨に賛同したビジネスパーソン（約10名）

7. 効果：

第一目的は親子で出かける負担を減らして外出機会を増やすことですが、次のような効果も十分期待できると考えております。

（親子を中心とした効果）

- ・ 親が楽しく出かけられるようになり、育児によるフラストレーションが低減できる。
- ・ 親子のコミュニケーションが増える。
- ・ ベビーカーステーションを核として、親同士のつながりができる。

（社会的な効果）

- ・ 街で赤ちゃんを見ることで、その場の社会的緊張を緩和することができる（なごみ）。
- ・ 赤ちゃんを核として、世代間のコミュニケーションを促進することができる（つながり）。

- ・赤ちゃんがいられる場所＝安心安全な場所というイメージから、女性や高齢者も安心して出かけられる場所として認知される。
- ・ベビーカーの使いやすい街＝バリアフリー化の促進
- ・街の賑わいの創出

(公共交通機関への影響)

- ・公共交通機関内にベビーカーを持ち込む必要が減り、幼児連れ乗客・そうでない乗客双方の利便性が向上する。
- ・席を譲るなど社内マナーの向上  
困っている人がいることに気がつく機会が増える＝他者への気遣いがしやすくなる。
- ・公共交通機関の利用率の向上
- ・車の使用の減少＝CO2 排出量の削減、省エネルギー

(商業施設への効果)

- ・施設間の回遊性の向上による、商品提供機会の増加
- ・利用者への PR 手段を確保できることによる売り上げの向上
- ・特定層へのダイレクトマーケティングが可能
- ・回遊データ、売り上げデータ、など  
ビッグデータの解析による商品トレンドの分析や新規商品の開発
- ・赤ちゃんについてくる幅広い年齢層の取り込み
- ・平日昼間の来客数の増加  
荷物が減るので、“大人 1 人と子ども”だけでも来やすくなる。

「子はかすがい、子は宝」と言いますが、赤ちゃんが過ごしやすい街、赤ちゃんがいる街になれば、様々なことがよい方向に転がると思います。

まだスタートしたばかりで実現まで課題が山積しておりますが、関係省庁及び各団体のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

以 上